

「ベトナムにおけるコンテンツ市場の実態」

平成 21 年 3 月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

本報告書に関する問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
海外市場開拓課

〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32
TEL：03-3582-5313
FAX：03-5572-7044

【免責条項】

ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

© JETRO 2009

本報告書の無断転載を禁ず。

アンケート返送先 FAX 03-5572-7044

日本貿易振興機構 海外市場開拓課宛

● ジェトロアンケート ●

「ベトナムにおけるコンテンツ市場の実態調査利用におけるアンケート」

ジェトロでは将来の市場として、潜在的需要が高い可能性のある国や地域のマーケット情報を日本の中堅中小企業の方々に紹介することを目的に本調査を実施いたしました。報告書をお読みいただいた後、是非アンケートにご協力をお願い致します。

■ 質問1：今回、本報告書で提供させていただきました「ベトナムにおけるコンテンツ市場の実態」について、どのように思われましたでしょうか？（○をひとつ）

4：役に立った 3：まあ役に立った 2：あまり役に立たなかった 1：役に立たなかった

■ 質問2：上記のように判断された理由、また、その他、本報告書に関するご感想をご記入下さい。

--

■ 質問3：その他、ジェトロへの今後のご希望等がございましたら、ご記入願います。

--

■ お客様の会社名等をご記入ください。

ご所属	<input type="checkbox"/> 企業・団体	会社・団体名
	<input type="checkbox"/> 個人参加	部署・部署名

～ご協力有難うございました～

はじめに

ベトナムは90年代にテレビドラマの「おしん」やJPOPの「恋人よ」が大ヒット、日本のコンテンツに対する親和性が高い。

しかし、テレビドラマでは「おしん」に続くヒットはなく、その後、韓国ドラマが大量に流入する。韓国企業がドラマのCMスポンサーになるケースも多く、韓国ドラマのヒットにより韓国製品も売上を伸ばした。反面、日本のドラマは、放映権料の高さやスポンサーの見つかりにくさもあり、「おしん」に続くヒットは出ていない。

テレビアニメは日本の番組に高い評価。今人気が高いのは、「ぶぶチャチャ」、「フルーツバスケット」など。また、ベトナム版「あいのり」が放映されるなど、フォーマット権も販売されている。

コミックスは「ドラえもん」の正規版が出版されたのを皮切りに、正規版が普及してきた。ただ、ネット上で、ベトナム語訳海賊版が出回っていることが正規版の普及を妨げている。ベトナムはアジアでもネットの普及率が高いことも海賊版普及の後押しをしている。

海賊版の問題は、音楽分野ではより深刻な問題で、ベトナム語の解説のついたJPOPの違法サイトが複数ある中、正規のCDを売ることは困難。ベトナム人歌手のCD販売すら伸び悩んでいる中で、韓国人歌手は「ライブ」を行うことを試みている。ライブはチケット販売のほか、正規版CDやグッズを売る機会として捉えられている。

本調査がベトナム市場への進出を考えている日本企業の参考になれば幸いである。

2009年3月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

目次

1	ベトナムのテレビ（ドラマ、アニメ）市場.....	3
	（ア）ベトナムの放送インフラ.....	3
	①ベトナムのテレビ放送.....	3
	②ベトナムの放送方式と主要放送局.....	3
	③ケーブルテレビ局の普及.....	4
	④放送事業.....	5
	（イ）ベトナムにおける日本アニメ、ドラマの放送の歴史と現状.....	5
	①ベトナムにおける日本のコンテンツの歴史.....	5
	②日本のコンテンツの現状（テレビドラマ編）.....	6
	③日本のコンテンツの現状（アニメ編）.....	8
	④日本のアニメとその他の国のアニメの違い.....	9
	⑤ベトナムにおける日本アニメ放送の今後.....	9
	⑥日本コンテンツの海賊版の現状.....	10
	（ウ）韓国コンテンツとの競合について.....	10
	①視聴率.....	11
	（エ）日本のコンテンツを取り扱っているテレビ局、企業.....	11
	①ベトナムで放送された日本の番組（2007-2009）（代表的なもの）.....	12
2	ベトナムの音楽市場.....	12
	（ア）ベトナム音楽界の特徴.....	12
	（イ）JPOP市場の有無と規模.....	12
	（ウ）そのほかの音楽市場.....	13
	①韓国スターの影響.....	14
	（エ）海賊版対策.....	14
	①オーディション.....	15
	②歌手の収入.....	15
	③ベトナムの若者の意識.....	16
	④主なプロダクション.....	17
	⑤音楽著作権.....	17
	⑥CD・DVDの制作・販売会社データ.....	17
3	ベトナムのコミックス市場.....	18
	（ア）コミックス市場の推移.....	18
	（イ）海賊版対策.....	19
	（ウ）主要出版社.....	19
4	参考：ネットと携帯.....	21

1 ベトナムのテレビ（ドラマ、アニメ）市場

(ア)ベトナムの放送インフラ

① ベトナムのテレビ放送

ベトナムは国営のテレビ局 VTV (Vietnam Television) が 1970 年 9 月に開局した。前身は 1945 年 9 月に創設された国営ラジオ局“ベトナムの声” VOV (Voice of Vietnam) で、同局の創設 25 周年を記念して VTV が創立された。

現在では VTV を筆頭に多くのテレビ局が放送業務を行っており、またベトナムの各省の殆どがローカル放送局を持っている。

ベトナムには 53 の少数民族が居住しており、少数民族は特有の言語を持つものが多く、彼等への教育、政府指導の必要から彼等の言語を用いた放送も行われている。また、南北に細長いベトナムでは北部、中部、南部で使われる言語に方言があり、地域限定で方言による放送を行っていてもいる。

② ベトナムの放送方式と主要放送局

ベトナムでは地上波（アナログ・デジタル）、ケーブルテレビ、衛星放送の 3 つの方式で放送している。代表的なテレビ局を以下に記す。

VTV (Vietnam Television)

所在地：43 Nguyen Chi Thanh - Ha Noi

Tel：04. 3835-4992

Fax：04. 3835-0882

HP：<http://www.vtv.org.vn/home/>

チャンネル	主な番組内容	放送方式	放送エリア
VTV1	ニュース、政治経済	アナログ地上波	全国
VTV2	教育・科学	アナログ地上波	全国
VTV3	スポーツ・エンターテインメント	アナログ地上波	全国
VTV4	海外在住ベトナム人向け	衛星放送	海外
VTV5	少数民族向け	アナログ地上波	特定地域
VTV6	若者向け	ケーブル・衛星	全国
VTV7	若者向け教育番組	ケーブル・衛星	全国
VTV8	英語放送	ケーブル・衛星	全国
VTV9	南部向け	アナログ地上波	ホーチミン市

HTV (Ho Chi Minh Television)

所在地：9- Nguyen Thi Minh Khai- Q1- TP Ho Chi Minh

Tel：08. 38292737

Fax：08. 38298457

HP：<http://www.htv.com.vn/tintuc/>

ホーチミン市を中心とした南部エリアでの放送を行っているが、ベトナム第 2 位の規模を持つ国営テレビ局。

以前は多くのチャンネルを有していたが、番組企画・制作・編成などの業務を民間に委託したチャンネルが多く、現在では 3 つのチャンネルのみとなっている。

チャンネル	主な番組内容	放送方式	放送エリア
HTV4	教育・科学	アナログ地上波	南部
HTV7	エンターテインメント	アナログ地上波	南部
HTV9	ニュース・政治経済	アナログ地上波	南部
HTVC	総合	ケーブル	南部

Hanoi TV (Hanoi Radio & Televison)

所在地：5 Huynh Thuc Khang - Ha Noi

Tel：04. 3835-6700

Fax：04, 3835-0280

HP：www.hanoitv.vn

ハノイ市を中心とした北部エリアでの放送を行っている国営放送局。ハノイに隣接するハタイ省のハタイテレビ局 (Ha Tay Television) と合併。ラジオ局も併設。

チャンネル	主な番組内容	放送方式	放送エリア
Hanoi1	ハノイローカル総合	アナログ地上波	北部
Hanoi2	ハノイローカル総合	アナログ地上波	北部
HCaTV	総合	ケーブル	北部

◇ その他のテレビ局

- VCTV (ベトナムケーブルテレビ) VTV系ケーブルテレビ局
844 La Thanh, Ba Dinh, Ha Noi
- HCTV (ハノイケーブルテレビ)
30 Trung Liet, Dong Da, Ha Noi
- SCTV (サイゴンツーリスト・ケーブルテレビ)
31-33 Dinh Cong Trang P. Tan Dinh, Q1, TP. Ho Chi Minh
- VTC (ベトナムマルチメディアコーポレーション)
65 Lac Trung, Hai Ba Trung, Ha Noi
- Vietbao Cable TV (ヴィエットバオケーブルテレビ)

③ ケーブルテレビ局の普及

ケーブルテレビでは60チャンネルの視聴が可能だ。

テレビを持っている家庭のケーブルテレビ加入率は、ハノイが70%、ホーチミン市では90%が加入という高い数値となっている。地方都市ではダナン市50%、カントー市15%となっている。

ケーブルテレビの加入料金は月額60,000ドン～90,000ドンとなっており、低料金で多くのチャンネルが高画質で視聴できることが加入率の高さの要因となっていることは間違いない。

契約をすれば簡単にテレビに結線することで視聴ができる。しかし、この方式は画像の質があまり良くないため、今後ブースターを導入することを検討している。

大手ケーブルテレビのシェアは

- | | | |
|--------|--------------------|-----|
| ◇ ハノイ市 | ハノイケーブルテレビ (HCTV) | 20% |
| | ベトナムケーブルテレビ (VCTV) | 60% |

◇ ホーチミン市	サイゴンツーリストケーブルテレビ (SCTV)	50%
	ホーチミン市ケーブルテレビ (HTVC)	40%

ケーブルテレビでは国内各局の番組および、海外の番組を視聴することができる。視聴できる主な海外局は、CNN、FOX、Discovery、National Geographic、Animax、BBC、STAR TV、Cartoon Network、Disney Channel、ESPN、Cinemax、HBO、MGM、JET TV、Sony Entertainment TV、KBS、NHK World など。

衛星放送は基本的に地上波およびケーブルテレビでカバーできない難視聴地域向けに放送されており、規模は小さい。

衛星放送受信料金は月額 90,000 ドンと所得の低い地方においてはかなりの高額となっているが、一村全戸にパラボラアンテナが備え付けられている光景を目にすることもあつる。パラボラアンテナは普及タイプが 3,000,000 ドン、高性能タイプが 5,000,000 ドンとかなりの高額である。

④ 放送事業

これまでベトナムの放送事業は国営の独占となっていたが、最近では民間企業の参入が認められ、さらに外国資本との合弁も可能になっている。

例えば、SCTV は VTV と国営旅行会社サイゴン・ツーリストとの合弁ケーブル・テレビ局である。また、ベトナムマルチメディアコーポレーションが運営する VTC は数多くのチャンネルを有しているが、そのうちの VTC 7 (地上波) は外国資本としてシンガポール企業から 20% の出資を受け、国内企業からは Kim Do (製パン業) 20%、Habu Bank (銀行) 20%、FSC (広告代理店) 20%、その他 20% の出資による合弁会社となっている。

そのほか HTV2、HTV3 も民間が番組制作を行っている。ただし、先にも述べたが国営放送局はチャンネルの企画・制作・編成を民間に卸すが、放映権利は国営放送局が持つ。

(イ) ベトナムにおける日本アニメ、ドラマの放送の歴史と現状

① ベトナムにおける日本のコンテンツの歴史

1975 年のベトナム戦争が終結後も中越戦争やカンボジア侵攻などもあり、ベトナムは国際社会から取り残され、経済的にも文化的にも“陸の孤島”となってしまった。転機は 1995 年、アメリカがベトナムに対して行っていた経済制裁を解除したことである。

テレビ放送も 1995 年以前と以降では大きく様変わりをする。1995 年以前は VTV の放送も 1 日に数時間しかなく、昼間は殆どテストパターンか砂嵐状態で、ニュースと国内で作られた低予算ドラマ、歌番組かフランスおよび中国からの無償援助で譲り受けた番組ぐらいしかなかった。そんなおり、ベトナム中を熱狂の渦に巻き込んだドラマが登場する。

1994 年に日本政府と NHK の協力で放映された「おしん」である。「おしん」が始まると町に人がいなくなる。まだ普及台数の少なかったテレビに多くの人々が群がり、皆が感情を一つにしてこのドラマに没頭したのだ。

VTV は NHK の協力の下、この「おしん」でベトナム初の吹き替えを行った。それまでのベトナムで放映される外国語の番組は、何人ものセリフを 1 人でアテレコをする弁士スタイルだった。セリフの応酬についていけなかったり、セリフを飛ばしたり、棒読みだったりするが、庶民はそれが当たり前だと思っていた。

「おしん」ではベトナムの俳優がそれぞれの役になりきって吹き替えを行ったが、あまりの感情移入の激しさにプロデューサーが抑えるのに苦労したという話を聞いた。番組終了

後は「おしん」の話題で持ちきりとなり、政府高官までがテレビ局に電話で感激の気持ちを伝えたという。このベトナムが初めて試みた吹き替えで面白いエピソードがある。「おしん」に出る日本人俳優はみなベトナム語が上手い！」と庶民の誰もが思ったという。

アニメ、ドラマではないが、ベトナムのテレビ界にショービジネスの芽を植えつけたイベントがハノイで催された。1995年10月にハノイのレーニン公園（現在は統一公園）で行われた山本寛斎のスーパーショー「ハローベトナム」である。VTVはこのショーでベトナム初の生中継全国放送を経験する。ぶっつけ本番の生中継は、カメラのスイッチング（切り替え）が上手くいかず、真っ暗な画面が映ったりするミスもあったが、VTVのスタッフにとってこの経験が後に非常に役立ったという。同時にイベントの企画・構成・運営のノウハウを得たことが、その後の放送事業に多大な恩恵をもたらした。

余談であるが、この「ハローベトナム」で「おしん」を演じた小林綾子が録音による“声”の出演をした。このときの観衆の大歓声はおしん人気を裏付ける出来事であった。

1990年代前半、コミック本分野ではすでに日本の作品が海賊版として出回っていたが、テレビでの放映は短期または一時的にはあったが、殆ど見られなかった。後半に入って「ドラえもん」「セーラームーン」などのアニメが放映されていたが、画質が悪くおそらく中国からの海賊版を放映していたものと思われる。このあたりをベトナムのテレビ関係者に聞いてみたが、テープが残っていないから分からないという返事であった。

時々日本政府が無償で提供した映画やドラマが上映されたが、その殆どが日本語のまま、一部の日本語学習者向けにとどまっていた。

テレビでは「北の国から」が字幕入りで放映されたが、細やかな心情表現がベトナム人には殆ど理解できなかったようだ。

2000年前後から急速に外国のテレビ番組が増え始め、やがて韓国ドラマの上陸がベトナム人のライフスタイルまでも変えていくことになる。

ベトナムの放送業界にはまだまだ日本のコンテンツが輸入されていないのが現状だ。その理由を聞いてみると、

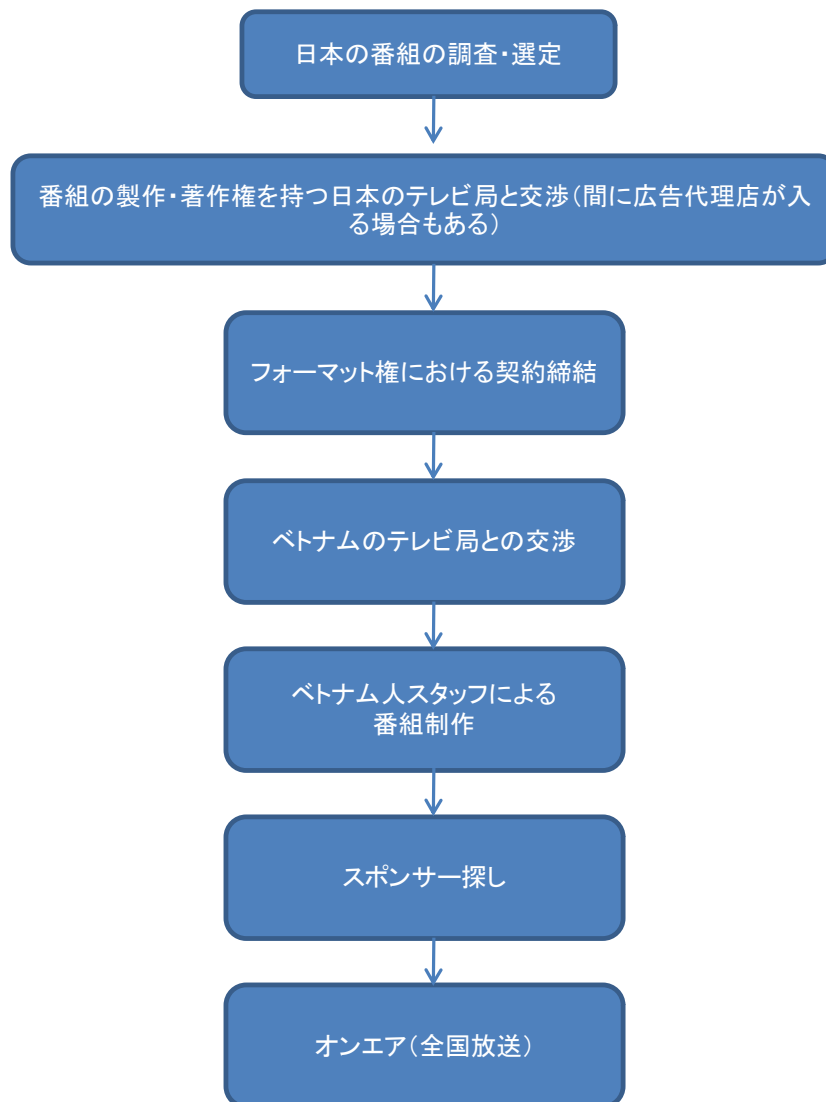
- i. 日本の番組は再使用の際、プロダクションおよび出演者からの了承を取り付けなければならない手続きが煩雑で時間がかかる。
 - ii. 著作権料が高い。
 - iii. 日本のドラマはストーリー展開が複雑でベトナム人に馴染まない。
- などの声が聞かれる。

② 日本のコンテンツの現状（テレビドラマ編）

ベトナムにはこれまであまり日本のテレビ番組が放映されることがなかったが、ここ1～2年、新たな試みが始まっている。特に注目されるのが、フォーマット販売だ。

MCV社は日本の放送局から番組のフォーマット権を購入し、その番組のコンセプトを損なわずにベトナムにてベトナム人スタッフによる番組制作を行い、テレビ放映している。これまでにMCV社が手がけた日本の番組は、「あいのり（ラブワゴン）」フジTV 「幸せ家族計画」TBSがある。

番組制作の大まかな流れは、



日本で放映されている番組の調査・選定に当たっては、ベトナム国家・社会に悪影響を及ぼさないことが大前提となる。一般常識的にベトナム国家に批判的なもの、卑猥なものがこれらに当たるが、暴力的なものについてはさほど厳しくはない。なお、これらの許認可は国营である放送を担当するテレビ局が行う。

契約条項には日本の番組のフォーマットを逸脱した番組制作を行わないことをベトナム側に条件提示しているが、ベトナムの文化、風習などにそぐわない部分を変更することもあり、その場合は日本側の了解を得た上で行うことになる。

ベトナムのテレビ局は番組制作に資金を出すことは無く、放送時間枠の販売と許認可の手続きを受け持つ。ハノイ市やホーチミン市などの大都市部の放送局から視聴率の高いいわゆるゴールデンタイム（夜6時～10時）の放送時間枠を獲得することは非常に難しい。多くの番組がこの時間帯の獲得にしのごを削っており、当然時間当たりの金額も高い。番組制作会社としてはベトナムのテレビ局と強いコネクションを持つことが不可欠である。

最も高い時間帯は20:00～22:00で最高額は1時間2,000\$。続いて11:00～13:00、17:00～18:00の順になっている。

スポンサー探しは番組制作会社の最も重要な仕事である。フォーマット権購入費、許認可費用、番組制作費、放送時間枠購入費などは、すべてスポンサーからの支出金でまかなわなければならない。また、番組の選定から放映されるまでには平均で2年の月日がかかり、この間の出費はすべて制作会社が負担しなければならない。制作会社は2年の準備期間内に大きなトラブルが起きると致命傷になりかねないというリスクを背負っている。よって、番組制作会社はかなりの資金力を持っていないと成り立たない。

ベトナムにおける番組制作については、フォーマット権を与えた日本のテレビ局側からオブザーバーとして日本人担当者（プロデューサーまたはディレクター）がベトナム人スタッフとともに番組作りに参加する。ちなみに1つの番組を制作する上で、監督は月収にして約4,000\$、カメラマンは1日300\$支払わなければならない。

ベトナムのテレビ局は日本のコンテンツにほとんど興味を示さない。これまで、日本の公的機関から無償で番組提供を受けてもほとんどオンエアされていない。その理由として挙げられるのは

- ✓ 日本のテレビ番組で取り上げるテーマがベトナム人の文化、風習と合わず、ベトナム人視聴者の興味を誘わない。
- ✓ 日本のコンテンツを放送しても日本企業がなかなかスポンサーとならない。
- ✓ 日本の番組の著作権は複雑である。日本の番組は再使用の際、プロダクションおよび出演者からの了承を取り付けなければならないと手続きが煩雑で時間がかかる。
- ✓ 日本の番組の価格が高い。

日本のコンテンツの販売価格は企業秘密ということで知ることはできなかったが、日本のコンテンツは韓国ドラマの3倍、中国ドラマの5倍と言われている。

ベトナムでは残念ながら、「おしん」を除いて、日本のコンテンツはあまり知られることがなく、たまに放映されるドラマもベトナム人の好みに合わず、現段階では「日本の番組は面白くない」との評価を受けている。過去にいくつかの番組が放映されたが、ビジネス的にはどれも失敗している。

日本の番組は出演している俳優（またはプロダクション）に1話ずつの著作権の了解をとらなければならないと、手続きが難しく時間がかかる上、著作権料の支払いが番組購入費を高額にしている。

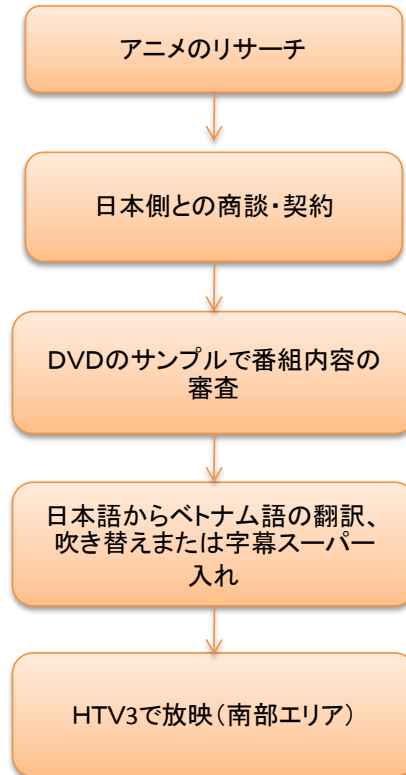
③ 日本のコンテンツの現状（アニメ編）

昨今の多チャンネル化に伴い、各国のアニメがベトナムでも放映されている。特にケーブルテレビではCartoon Network、Disney Channel、Animaxなどで外国アニメが簡単に視聴できるようになっている。そんななか、日本のアニメを正規に輸入して放送している企業がある。

チービエットメディア会社（TVM）は2005年に設立され、2008年にホーチミンテレビ局からHTV3の業務委譲を受けた。早くから日本のアニメに目を付けていた同社はまず、2006年から小学館、集英社、講談社などからコミック本の輸入を始めた。また、東映とは「ドラゴンボール」の契約交渉に入り2年後の2008年ようやく契約成立に至った。その後もTBS、テレビ東京、電通などと日本アニメ作品の契約を順次進めている。

アニメの購入価格はどの作品も大体同じで1話30分で500\$である。

アニメの購入から放送の流れは



TVM が日本のアニメを放送して7ヶ月になるが、現在、放映中のアニメにはスポットの広告主はいるもののスポンサーが付いていない。毎回の視聴率が上位にランクされれば、自然とスポンサーは付くという。

現在人気の高いアニメは「ぶぶチャチャ」「フルーツバスケット」「女子高生 GIRL'S-HIGH」となっている。

④ 日本のアニメとその他の国のアニメの違い

TVMによるとアメリカや中国のアニメは話の内容が教育指導くさくなるものが多い。それに比べて日本のアニメの題材は夢と想像性が高く面白いという。

TVMの強さはスタッフが若いことだ。彼らはアニメの翻訳をするときに、子供たちの中で流行っている言葉、生の言葉を使う。それによって子供たちはアニメのキャラクターを身近に感じることができる。大人たちにはよく理解できない言葉も多い。

⑤ ベトナムにおける日本アニメ放送の今後

今後、日本のアニメの放送は飛躍的に伸びてゆくだろう。日本が世界に誇るアニメはベトナムでも人気が高い。放送局、制作会社がどんどん日本側にアプローチをかけていくと思う。

さらに、アニメのキャラクタービジネスが大きな市場になる。3年前にディズニーがベトナムでキャラクタービジネスを展開したが失敗に終わった。ベトナム人にとって西欧文化は少し抵抗がある。その点、日本のキャラクターはベトナム人に向いてい

と思う。

もう一つはアニメ番組の次はアニメムービーの輸入。TVM としてもスタジオジブリの作品をぜひベトナムに紹介したい。宮崎監督ともお会いしてよい関係を作っているが、実現までにはなかなか難しい。

⑥ 日本コンテンツの海賊版の現状

日本で放映されたドラマの殆どが2～3ヶ月のちにDVDとなって町のDVDショップに並ぶ。1枚のCDに2話入り、全11話で6枚程度のセット価格が100,000ドン前後で購入できる。1話あたり約9,000ドンという劇的な安値で視聴することができる。最近ではDVDへの録画圧縮技術が発達し、1枚のDVDに3話収録されたものも出ている。これらの殆どが中国からの輸入である。ただし、音声は日本語、中国語、韓国語などでベトナム語が入っていないためベトナム人の購入は少ない。

これまで、ベトナムではテレビ番組を録画するという習慣がなかった。ベトナム人に理由を聞くと「ベトナムのテレビ番組はつまらない」という答えが返ってくる。ビデオデッキにしるDVDデッキにしる、ベトナムで売れるのは圧倒的に再生専用機だ。テープデッキにあった“3倍速”というものも全く知らない。町にはレンタルビデオ屋がいたところにある。貸し出しコンテンツの殆どが外国映画だ。だが、ベトナムのテレビが年を追って充実度を増して来ることによって番組の録画が行なわれるようになってきた。今のところ個人使用の範囲内で治まっているが、商機に敏感なベトナム人は需要があると見れば番組コピーの販売をする者が現れるだろう。TVM社もその辺りを懸念していた。

(ウ) 韓国コンテンツとの競合について

1999年より、韓国のテレビドラマのベトナム進出が始まった。日本でも一大ブームを巻き起こした「冬のソナタ」や「チャングム」はベトナムでも人気を博した。とにかく無数の韓国ドラマが毎日ベトナムのテレビに映し出される。なぜこれ程までに韓国ドラマがベトナム人に受け入れられているのか。その第一の理由は、韓国政府が主導していることだ。韓国は官民一体となって番組を安く輸出している。李鍊上智大学客員教授¹によると、2001年1年だけでベトナムに201本のドラマが輸出されたという。

番組の販売価格は安いものの、韓国企業は番組に登場する衣服や化粧品などの韓国製品をベトナムに売り込んでいる。これは確実に効果を表しており、現代のベトナム人は韓国ファッション一色である。また、ベトナム人の韓国旅行も増えている。こうした「プロダクト・プレイスメント」や「観光」を狙った戦略は韓国の特徴である。ベトナムでは前述のとおり、国営放送でもCMがあり、スポンサーを探すのはテレビ局ではなく、番組の制作者ないし提供者であるが、韓国ドラマの場合、韓国企業がスポンサーとなることも多いことが、放映をしやすくしている要因でもある。

ドラマの内容もベトナム人の心を掴んでいる。これには、これまでのベトナム国産ドラマが面白くないという下地がある。ベトナム共産党の指導の下、国産ドラマは型苦しい内容のものが多く、その点韓国ドラマはラブストーリーや勧善懲悪モノなど分かりやすく娯楽性の高いものが多い。

韓国の放送局であるKBSやSPSはベトナムに支店を設置し、ベトナムのテレビ局と番組制作で協力体制を構築している。

HTV7は韓国のCJMedia社と『Vuon ao thuat (魔法の庭)』というベトナムドラマを2006

¹ 『韓国におけるテレビ番組の輸出政策について』上智大学新聞学科紀要 『コミュニケーション研究』第35号(上智大学コミュニケーション学会/2005年3月24日発行)なお肩書きは2005年当時のもの

年から共同制作している。ベトナム初の200回連続シリーズとなる大型ドラマだ。

このようにベトナムのテレビ業界に積極的に関わっていく韓国テレビ業界の姿勢が、ベトナムのテレビ業界、社会に大きな影響を与えている。

ただ、アニメの分野では韓国は日本に敵わない。もっとも韓国にとってみればアニメでは韓国製品が売れないのであまり関心がないところではある。

① 視聴率

テレビ番組の視聴率はTNSという会社がベトナムで唯一集計業務を行っている。集計方法には2通りあり、リモコンスイッチを貸与し視聴している番組に相当するボタンを押すPeople Meter方式と視聴番組を紙に記入してもらうDiary Meter方式がある。People Meterはホーチミン市で、Diary Meterはハノイ、ダナン、カントー各市で採用されている。ホーチミン市は265家庭に、ハノイは315家庭に視聴率調査を依頼している。

集計した視聴率は契約している企業に販売し、一般公開はされない。現在約15社がこのサービスを契約しているが全て外国企業である。日本も2社が契約している。契約料金は年間で200,000\$。

(エ) 日本のコンテンツを取り扱っているテレビ局、企業

- MCV Media Advertisement Development Mac Corporation of Vietnam
 Hanoi office:#2101-21th floor, ICC Building 71 Nguyen Chi Thanh, Hanoi
 Tel: (84-4) 6275-2435
 Fax: (84-4) 6275-2336
 e-mail:mcv.corporation@gmail.com
<http://www.mcv.com.vn>
 President & CEO : Pham Tu Liem
 「あいのり」「幸せ家族計画」を制作
- TVM Tri Viet Media Corp.
 Level 15, The Landmark 5b Ton Duc Thang, Dist.1 HCMC
 Tel: (84-8) 3823-0901
 Fax: (84-8) 3823-0906
www.tvmcorp.com
 Chairperson:Le Thi Phuong Thuy
 日本のアニメを輸入・放送。グループ会社にHTV3を持つ。
- QV MEDIA
 5 Hai Ba Trung, Dist.9 HCMC
 Tel: (84-8) 3730-6423
 Fax: (84-8) 3730-6415
 e-mail: quoc_bui@Qvmedia.com.vn
 メディアリサーチ、トレーニング、コンサルティング

① ベトナムで放送された日本の番組（2007-2009）（代表的なもの）

タイトル	ジャンル	チャンネル
義経	ドラマ	VTV3 (National)
ちびまる子ちゃん	アニメ	N A
銀河鉄道 999	アニメ	HGTV (Hau Giang)
ドラえもん	アニメ	N A
ハルとナツ	ドラマ	BRT (Ba Ria Vung Tau)
NARUTO	アニメ	CVTV1 (Can Tho)
ドラゴン桜	ドラマ	CVTV2 (Can Tho)
名探偵コナン	アニメ	N A

2 ベトナムの音楽市場

(ア)ベトナム音楽界の特徴

ベトナムの音楽市場を語る前に、ベトナム音楽界には特異な事情があることを簡単に説明しておきたい。

長きにわたる戦争がようやく終結し、南北統一を果たしたベトナムだが、ポピュラー音楽界においてはこの統一が暗い影を落とすことになった。アメリカが駐留した南部は早くから欧米のポピュラー音楽に親しみ、世界の音楽情報もある程度入っていた。しかし、南北統一後ベトナム政府は欧米的なポピュラー音楽の演奏を禁止し、民族の士気を煽るニャック・カック・マン（革命音楽）という民族主義的音楽を奨励した。さらに共産主義国家になったベトナムにおいて南部人を中心に国外脱出が始まり、音楽・芸能関係者もアメリカ、カナダ、フランスなどに亡命した人が多かった。

国外に脱出した人々は世界各地にベトナム人コミュニティを形成し、新天地での音楽活動が盛んに行われた。彼らは“越僑”と呼ばれ、アメリカのカリフォルニア州の“リトルサイゴン”には約 150 万人の越僑が暮らし、100 名を超える歌手が盛んに音楽活動をしていた。

1986 年ベトナムはドイモイ政策を推進する。これを機に国を脱出した音楽家たちがポピュラー音楽を持って祖国に戻り始めた。越僑の持ち込んだ文化・音楽はすぐに本土の若者たちに支持され、若手音楽家に影響を与えることになる。

アメリカの経済制裁が解除された 1995 年以降、音楽のグローバル化が一気に加速され、2000 年に入ると欧米の音楽がごく自然に受け入れられていく。この頃になるとベトナムの歌手が海外進出を始め、まずは越僑のコミュニティでの音楽活動が始まった。

ベトナムのポップス市場が形成されたのは 1995 年以降のことであり、その歴史はまだ 10 年ほどのものである。

(イ) JPOP 市場の有無と規模

ベトナム人が誰でも知っている日本の曲といえば五輪真弓の「恋人よ」である。いつ頃からベトナムで歌われるようになったのか、また、どういう経路でベトナムにこの歌が入った

のかは定かではないが、1990年初頭にはすでに歌われていた。ベトナム人は哀愁を帯びたメロディを好み、ベトナム歌謡も恋人や家族を想い慕って切々と歌う曲が多い。「恋人よ」の短調のメロディはそんなベトナム人の心を捉えたのである。日本語のまま歌われることも多いがベトナム語訳の「恋人よ」も広く歌われている。

しかし、JPOP となるとベトナムでの認知度、市場は、日本語を学ぶ者、日本のファッションや芸能に興味がある者などを除いて非常に限られている。ここ1~2年でようやくJPOPというジャンルがネットなどで見かけられるようになったが、これはアジアポップスやKPOPのおまけみたいな存在でしかない。それでもインターネットの普及によってJPOPに触れる機会が多くなったことは、今後JPOPがベトナム上陸を果たすきっかけと成り得るだろう。JPOPを紹介する「違法」サイトは複数存在する。

視聴においてはインターネットでのダウンロード、テレビで放映されるMTVなどの音楽番組、CD、DVD(殆どが海賊版)、音楽雑誌や若者向け雑誌の紹介記事などが中心となっている。

ベトナムに入ってくる日本の楽曲はその殆どが中国や韓国などで人気のある歌手であり、アジアポップスの中の一つという捉え方がなされている。

ベトナムの歌手が日本の歌を歌うことも稀にある。ベトナムの国民的歌手ミーリン(My Linh)も浜崎あゆみのカバーを歌っている。また、ベトナムの人気男性歌手ラムチュオン(Lam Truong)は1996年に行われた歌謡コンテストで徳永英明の「レニーブルー」を中国語で歌い第2位になり、芸能界入りの足がかりとなった。

(ウ) そのほかの音楽市場

ベトナムで広く聴かれている音楽はベトナム歌謡である。最近ではポップス調の曲もよく聞かれるが、1930年代に出現したタンニャック(新音楽)の流れを汲む楽曲が広い支持を受けている。

ベトナムの音楽はもともとペンタトニック(5音の音階でメジャーの陽旋法とマイナーの陰旋法の二種類がある)を中心に作られていた。日本にもペンタトニックの楽曲は多いが“こぶし”に当たる装飾音の使い方がベトナムと日本では違っており、聞いた印象は日本にはない独特のものである。

1930年になって西洋音楽で主流の全音階(ドレミファソラシド)を使った曲作りがなされ、より感情表現の豊かな曲が作られるようになった。この新しい音楽タンニャックはたちまち人々に受け入れられ、多くの作曲家、歌手によって多くの名曲が生み出されることになる。国民的な作曲家のチン・コン・ソン(Trinh Cong Son 1939-2001)の楽曲は日本でもヒットした。

しかし、戦火をくぐりながらの音楽制作・活動は、正規の西洋音楽の基礎を学ぶことができず、いわゆる独学に近い形で曲作りを行っていたため、西洋の音楽理論的に不可解な作曲が多く、それがそのまま直されることなく固定されてしまい、生まれたときから不完全な西洋音楽を聴かされて育ったベトナム人がポップス音楽になかなか才能を現せなかったのも当然のことと思える。

1990年代に入ってようやく西洋音楽を自然に聴ける環境になり(このころはカーペンターズとリチャード・クレイダーマン一色だったが)、また、音楽大学の設置、ヤマハ音楽教室など子供向け音楽教室の普及などによって急速に向上していく。ちなみにヤマハ音楽教室は98年にベトナムに教室を設置している。

ベトナムにおけるポップス市場の発展が遅いもう一つの理由に“言葉”が挙げられる。ベ

トナム人はベトナム語に誇りを持っている。一例を挙げると、ベトナムの大学生は酒宴の席で宴たけなわになると即興でベトナム語の詩を作り披露し合う。ベトナム政府もベトナム語の保守政策を取っており、一時期看板に固有名詞以外の外国語表記を認めなかった。スポーツ中継でも用語は殆どベトナム語に訳されていた。また、外国語ブームとは言え、一般人の英語力はかなり低い。そんな環境が西欧の曲を歌うことを難しくしているのではないだろうか。

一方、ザンカー (Dan Ca) と呼ばれる民謡や民俗音楽の愛好者も多い。

ハノイに本社を持つ CD の制作・販売においてベトナム最大の国営会社「ホグオム・オーディオ・ビデオ社」によると、制作・販売される CD・DVD は 100%ベトナム国内の歌手によるもので、海外からの輸入 CD・DVD の販売は行っていない。

ホグオム・オーディオ・ビデオ社の年間発売枚数は CD、DVD、VCD 合せて 1,000,000 枚 (2008 年) で、CD の売り上げが 50%を占めている。

また、業界第 2 位のホーチミン市に拠点を置く CD の制作・販売の国営会社「ベントイン・オーディオ・ビデオ社」も海外からの輸入販売は行っていない。

ベントイン・オーディオ・ビデオ社の年間発売枚数は CD200,000 枚、DVD、VCD (2008 年) で 100,000 枚となっている (2008 年)。

上述 2 社の販売枚数の少なさをみると、ベトナムでのパッケージソフト販売の難しさがわかる。

① 韓国スターの影響

ポップスの世界でも韓国はベトナムで着々とその地歩を固めている。韓国からは続々とトップスターがベトナムでコンサートを開いている。2007 年にはトップスターのピ (Rain) がホーチミンでコンサートを開いた。29 トン近い大掛かりな舞台装置を空輸し、280 万ドルをかけたコンサートは高額なチケットであったにもかかわらず (250,000 d ~ 2,500,000d) ベトナム人を魅了した。海賊版が出回るベトナムで、ライブ・ステージは確実にある程度の金額を回収できる手段である。

これらの韓国スターの公演はベトナムの若いポップス歌手のお手本となり、ファッション、スタイル、歌唱がどんどん真似されている。

若いベトナム人にとってポップス音楽に親しむ環境は日々整ってきている。とは言っても、まだまだ所得水準の低いベトナムでは、海外の大物アーティストを招聘する力はない。彼らが手本としているのは MTV やネットの音楽サイトなどである。今後、日本のトップアーティストが日本での公演と同質のコンサートをベトナムで行えば、彼らの目が、JPOP に向くことは十分想定できる。

(エ) 海賊版対策

ホグオム・オーディオ・ビデオ社の話によれば、高額な著作権料と違法コピーの問題が楽曲輸入の障害となっている。特に違法コピーは、売上げを落とし、楽曲や演奏者に対する信頼を失わせる。人気の高い楽曲だと朝に販売した CD が 2 時間後にはコピーされ市場に出回るといふ。コピーは正規品に比べ 16~17%の安値で売られている。販売店も違法と知りながらコピーを売っている。正規品の方が品質もよく利益率も高いのだが、安いコピー商品の方が数売れるので、いわゆる薄利多売が成り立っている。店舗を持たない移動販売の商品は殆どがコピー商品だが、消費者にとってわざわざ店舗に出向くことなく気軽に購入できる移動販売はそれなりの需要がある。

違法コピーの取り締まりについては公安が当たっているが殆ど効果がない。コピーCD 制作者には罰金が課されるが、販売者には殆どお咎めがない。また、罰金自体が安いので罰金を払ってでも違法コピー商品を販売し続けるほうが商売になる。

ホグオム・オーディオ・ビデオ社では製品にコピーガードを入れることはしていないが、違法コピーの対策は取っているおり、同社は日本のコピーガードにも興味を持っている。

① オーディション

ベトナムのレコード製作会社の業務内容は、レコーディング、プレス、販売の3つに分類される。大手レコード製作会社はレコーディングスタジオを自社に持ち、選曲から歌手の選定、演奏者・アレンジャーの手配などのプロデュース業務も行っている。また、同社が歌手の発掘のためのオーディションを開催し、歌手を売り出すためのプロモーションなどを手がけることもある。

ここ数年ベトナムでは歌手やアイドルのオーディションが増えてきている。

1995年に日本の大手芸能プロダクションがベトナム人アイドルを発掘し、日本でのデビューを計画した。ベトナムでのオーディションで日本側審査員が選んだ歌手は、歌は上手くないが容姿がアイドル向きな女性を選んだ。だが、ベトナム側は歌の上手さにこだわり、アイドルとは程遠い歌手を選んだ。結果、歌の上手い歌手が優勝し日本でのレッスンとデビューチャンスを掴んだのだが、残念ながら日本でのデビューは果たせなかった。当時のベトナムにはアイドルという概念が理解できなかったのだ。なお、彼女の名誉のために付け加えておくと、彼女はいまや押しも押されぬベトナムの大歌手となっている。さらに、当の日本のプロダクションは以後ベトナムでのオーディションをやめてしまった。

2007年にはアメリカで人気のアイドルオーディション番組「アメリカン・アイドル」のベトナム版「ベトナム・アイドル」がホーチミン市テレビ局によって開催され、ベトナムのティーンエイジャーの関心を集めた。

② 歌手の収入

歌手と一口に言っても無名から有名まで様々な境遇があり、それぞれで歌手業の形態も違ってくる。

無名～中堅歌手

結婚式場、ライブハウス、パーティなどで興行し出演料を得る。

有名歌手

ライブハウス、パーティなどの出演、テレビ・ラジオ出演、コマーシャル出演、イベント出演、海外公演、CD、DVDの売上げなど

最近では歌手の活動の場も広範に渡ってきているが、4～5年前まではほとんどの歌手がライブハウスの出演料で収入を得ていた。

ハノイやホーチミン市の大都市には多数のライブハウスがあり、歌手たちは1軒のライブハウスで3～4曲を歌い、ステージを降りると着替えもそこそこに次のライブハウスへとほしごをする。

一部の歌手を除いてライブハウスへの売込みや集金などのマネージメントは全て自分一人または家族・親族で行っており、自分の唄う歌はカラオケをMDに録音し、そのMDをライ

ブハウスのPAから流して唄っている。

ライブハウスでの出演料は、歌手のステータスによって大きく違っている。無名の歌手ならば1曲50,000ドンぐらいから。有名歌手になると1回のショーで3,000\$以上の収入を得る。

主なライブハウス一覧

- Ha noi:

1)	Jazza Club	62 Nguyen Truong To	TEL 04-3715-1158
2)	Ho Guom Xanh	32 Le Thai To	TEL 04-3828-8806
3)	Ca Phe Aladdin	2114D2, Giang Vo	TEL 04-3834-4605
4)	Paloma Cafe	75 Ly Thuong Kiet	TEL 04-3942-8886
5)	Bar Fantasies	52 Ton Duc Thang	TEL 04-3733-3888
6)	Lan Song Xanh	6A Chua Boc	TEL 04-3572-6727
7)	Ly Club	4 Le Phung Hieu	TEL 04-3936-3069

- Ho Chi Minh:

1)	Bar- Cafe Spark	212/66A Nguyen Trai, P. Nguyen Cu Trinh, Q.1	TEL 08. 22447746
2)	Bar Yoko	22A Nguyen Thi Dieu, P.6, Quan 3	TEL 08. 3 9330577
3)	Cafe M&T	241/4a Co Giang, P.2, Q. Phu Nhuan	TEL 08. 39954272
4)	Cafe Piano	17 Ho Xuan Huong, P.6, Quan 3	TEL 08. 39301885
5)	Cafe 47	42 Ngo Duc Ke, Quan 1	TEL 08. 38410862
6)	Cafe Sai Gon By night	179/4 Nguyen Van Troi, Q. Phu Nhuan	TEL 08. 38422697
7)	Cafe Hoa Da	20 Tran Cao Van, P. Da Kao, Q.1	TEL 08. 62991445
8)	Cafe Ky Uc	14 Nguyen Chi Thanh, P.2, Q. 10	TEL 0989961008
9)	Catinat Club	46-48-50 Dong Khoi, Q.1	TEL 08. 38295517
10)	Quan ATB	234 Ly Tu Trong, Q.1	TEL 08. 38422697

CDの場合、レコーディング時に支払われるギャランティのケースとCD売上げ1枚に付き決められたパーセンテージを受取る印税方式とがある。ただし、CDの売上げによる収入はそれほど多くはない。

CD一枚の小売価格は約35,000ドン。1タイトルのCDを3,000枚出すのにかかる費用は4,000\$といわれ、単純に計算しても2,000枚以上売上げないとレコード製作会社の利益は出ない。

今後のCD業界の見通し

もともと市場が小さい上に違法コピーが横行し、さらにインターネットや携帯による無料視聴・ダウンロードが広まり、CD業界は急速に売上げが落ち込んでいる。今後の見通しは暗い。

③ ベトナムの若者の意識

共産党一党独裁の社会主義国家であるベトナムでは10年ほど前までの若者は芸能人に対して“特別な存在”という意識が希薄であった。その頃は芸能人も国家公務員という位置付けであったため、一つの職業との見方がなされていた。その傾向は特に北部に強かったが、アメリカ軍が駐留していた南部は、戦時中からジャズやロックのバンドに慣れ親しみ、ベト

ナム人の洋楽の音楽活動も活発であった。南部人は流行に敏感であり、外国の文化が比較的容易に流入できたこともあって、若者たちの音楽に対する感覚も斬新なものを求める傾向にある。有名歌手の“追っかけ”も南部では珍しくない。

ベトナムは南北に細長い国土を有しているが、北部と南部では人間の気質に違いがあり、それはCDの買い方にも表れている。ホーチミン市を中心とした南部人は新作CDが発売されるとすぐに飛びつくが、ハノイを中心とする北部人はそのCDの評判を聞いてから購入する。

芸能界に憧れる若者は年々増えている。ベトナムのショービジネスが少しずつではあるが成長してきて、スポットライトを浴びる芸能人たちの華やかさやトップスターの金銭的な豊かさ、そして何よりも昔はまっとうな職業として見られていなかった芸能活動が、1995年のアメリカの経済制裁解除によって、それまで世界との交流が閉ざされていたベトナムに世界の風が吹き込み、180度若者の意識を変えてしまったことによるところが大きい。また、最近では歌手を全面的にサポートするプロダクションも設立されている。

④ 主なプロダクション

- 1) Cong ty Nhac Xanh
26 Nguyen Xi Phuong 26
Tel : 08-3898-1165
greenmusic02@yahoo.com
- 2) Cong ty Nguyen Production
- 3) Cong ty Music Box
469 Huynh Van Banh Phuong 13, Q. Phu Nhuan
- 4) Cong ty Music Faces

⑤ 音楽著作権

これまでベトナムでは著作権の意識が希薄であったが、最近では著作権の保護に力を入れている。以前、ベトナムの歌手たちは好きな歌を唄うことができ、いわゆる“持ち歌”という考えがなかった。一つの歌を多くの歌手が唄っていた。しかし、ベトナムを代表する国民的な作曲家チン・コン・ソン (Trinh Cong Son/1939-2001) の遺産を管理している妹が、チン・コン・ソンの楽曲を勝手に歌うことを禁じ、著作権を主張するようになり、この影響が作曲家を中心に他の曲にも広がりつつある。最近では「楽曲の独占権」という考え方が出てきており、作曲家が期間を限定し、定めた歌手のみに歌唱を認めるというもの。契約していない歌手が勝手に唄って訴訟になるケースが出てきている。

今年1月のベトナム音楽著作権保護協会 (VCPMC) の発表によれば、2008年に同協会に支払われた著作権使用料が150億ドンに達したという。著作権料として1億ドン以上を受け取った音楽家は約20人で、最高額は1億9,700万ドンだったという。日本円にして最高額で100万円程度だが、それでも拡大しつつある市場といえよう。

⑥ CD・DVDの制作・販売会社データ

- ✓ ホグオム・オーディオ・ビデオ社 (Ho Guom Audio-Video)
43 Trang Tien, Ha Noi
Tel : (84-4) 3936-5784

✓ ベントイン・オーディオ・ビデオ社 (Ben Thanh Audio-Video)

64 Ly Tu Trong, Dist. 1, TP. Ho Chi Minh

Tel : (84-8) 3827-9308

Fax : (84-8) 3829-5456

<http://www.benthanhav.com.vn>

3 ベトナムのコミックス市場²

(ア)コミックス市場の推移

キムドン出版社が『ドラえもん』の著作権を買い、翻訳して出版したのが1992年で、わずか3ヶ月で30万部を売り上げるという大ヒットを記録した。これがベトナムに紹介された最初の日本の漫画である。ドラえもんの大成功がベトナムの出版各社に日本のコミックス出版の先鞭を付けたといっても過言ではない。

一般に日本のマンガを翻訳・出版するに当たっては、ベトナムで翻訳し、内容によってはベトナム人向けに修正を行う。例えば肌の露出が多い絵の場合、服を書き足すこともある。その上で日本の出版社に許可を得てから発行する。表紙のデザインも日本側に確認してもらっている。

版權は日本の出版社から3～5年単位で買っている。

人気上位3作品は、『ドラえもん』『名探偵コナン』『ドラゴンボール』で、年間発行部数は各6万部。現在は『ドラゴンボール』『ワンピース』が人気。

ベトナムではコミックスの読者層は17歳以下にターゲットを絞っており、現時点では大人向けのコミックスは市場に出回っていない。(詳細については表1を参照のこと)。

コミックスの小売価格は、FAHASA書店店頭で調べたところドラえもんの販売価格が15,000ドン。平均して13,000ドンとなっている。ただし、ページ数が日本のコミックスの半分ほどの分量になっている。日本では全42巻のドラえもんがベトナムでは100巻ほどになっている。ちなみにベトナムでは日本とページめくりが反対になっているため、絵も反転してある。

キムドン出版社では、ベトナムの漫画も多く出版している。そのうち『Bi Bo & Kim Quy』(Truong Quang Toan 著)は、2008年、日本の国際漫画賞で最終選考にまで残った。

ベトナムでは海外コミック作品では圧倒的に日本のものが多い。しかし、日本のコミックに対する懸念もある。例えば『クレヨンしんちゃん』などは有害と見なされ、流通禁止の処置が取られた。これは性的な描写が嫌われたためである。

日本のコミックスがベトナムに受け入れられている理由は、人を引き込むストーリーの巧みさ、絵やカット割の技術の高さ、漫画を通じて日本の文化習慣を知りたい、などの理由が考えられる。また、文字と絵からなるコミックは、アニメ・映画と小説の中間に位置する。アニメや映画のDVDを買うより手頃で、小説よりも親しみやすいことが人気と考えられる。

²本情報は、キムドン(KIM DONG)出版社の読者・著作権係ヒエン・アイン氏へのEメール取材によるものが主である。

(イ)海賊版対策

90年代に出回っていた日本のコミックはすべて海賊版だった。2005年にベトナムがベルヌ条約に加盟し、ベトナム各出版社は日本から正式にライセンスを取るようになった。これを機に海賊本は急激に姿を消していった。

海賊版は、漫画のような子供向けの出版物よりも小説や大人向けの出版物が多く出回っており、被害も大きい。

対策として、読者に海賊版を買わないように呼びかけ、出版物のクオリティを高めつつ価格を抑える努力をしている。当局も、出版ライセンスの管理を厳格化するなど協力をしてきている。

ベトナムでは出版された書籍の殆どがテキストデータでネット上に無料で公開されてしまう。誤字、脱字、落丁などがあるものの、ストーリーを知る手立てとして多くの人が利用している。

コミックス、漫画も例外ではない。全頁をスキャナーで取り込んだものがネット上で公開されている。紙媒体でのコミックの海賊版は減少したが、残念ながら、ネット上の海賊版は増加傾向にある。

(ウ)主要出版社

- i. KIM DONG 出版社：子供向けの出版物が多い
- ii. TRE 出版社：若者向け出版物を多く発行
- iii. VAN NGHE 出版社：文芸出版を多く手がけている

KIM DONG 出版社

住所：55 Quang Trung, Hà Nội
 電話：(844) 39434730
 Email: kimdong@hn.vnn.vn
<http://www.nxbkimdong.com.vn/?page=newsview&id=26144&cid=30>

TRE 出版社

住所：161B Lý Chính Thắng - Quận 3 - TP. Hồ Chí Minh
 電話：(84.8) 39316289 - 39316211 - 39317849
 Fax: (84.8) 38437450
 Email: nxbtre@hcm.vnn.vn
 Website: www.nxbtre.com.vn

VAN NGHE 出版社

住所：179 Lý Chính Thắng, P. 7, Q. 3, TPHCM
 電話：(84-8) 39316435 - 38249528 - 38249582 - 35260363
 Fax: (84-8) 39316435
 Email: info@nxbvannghe.com.vn
 Website: <http://www.nxbvannghe.com.vn/>

表 1 キムドン出版社より出版されている日本のコミック

	タイトル
1	忍たま乱太郎
2	吸血遊戯(ヴァンパイア・ゲーム)
3	きらきら馨る
4	メテオ・メトセラ
5	Amakusa 1637
6	あさりちゃん
7	バケルくん
8	爆転シュート ベイブレード
9	BASARA
10	僕等がいた
11	コロツケ!
12	DAN DOH!!
13	ドラえもん
14	デュエル・マスターズ
16	エスパー魔美
17	ふあいとの暁
18	ハヤテのごとく!!
19	ひとりぼっちの宇宙戦争
20	結界師
21	こわしや我聞
22	機動警察パトレイバー
23	MAR—メルヘブン
24	名探偵コナン
25	俺たちのフィールド
26	ポケット・モンスター
27	ポコニャン
28	烈火の炎
29	ロックマンエグゼ
30	スーパーフィッシング グランダー武蔵
31	キテレツ大百科
32	YAIBA
33	絶対可憐チルドレン
34	シネマの帝国
35	パーマン
36	超速スピナー
37	武心 BUSHIN
38	太陽少年ジャンゴ
39	King Sweets
40	有閑倶楽部
41	Mr. FULLSWING
42	Dragon Ball

43	One Piece
44	クロサギ
45	売ったれダイキチ!
46	GOLDEN★AGE
47	クロザクロ
48	シャーマンキング

4 参考：ネットと携帯

ベトナムでは急速にネットと携帯が普及している。ゲーム、音楽などを中心に、コンテンツを普及させるインフラとなりうるため、ここでまとめて紹介する。

【オンライン】

① ネット普及率、ADSL 普及率、ネットプロバイダーリスト、標準ネット料金

ベトナムでは、インターネットは 1997 年 11 月 19 日より民間利用が始まり、2003 年には全国ネットワークが完成した。

<ネット普及率>

ユーザー数：20,894,705

人口に占めるユーザー数の割合：24.47%（人口約 8530 万人）

ブロードバンド契約者数：2,095,666

※2009 年 1 月現在

出典：Ministry of Information and Communications of Socialist Republic of Vietnam

http://www.mic.gov.vn/details.asp?Object=211055497&news_ID=4740119

普及率はアジアの平均および世界の平均を上回っている。都市部では、ワイヤレスでネット接続ができる「WI-FI」対応のカフェが多い。

<ADSL 普及率>

通信情報省の発表によると、ADSL 契約者数：200 万人（2009 年 1 月）

<標準ネット料金>

会社や契約の形態により異なるが、ベトナム国内大手 FPT の一般的なファミリー使用の場合、Upload 3,072 Kbps、Download 512 Kbps の ADSL で毎月 28 万 5 千 VND（2009 年 3 月現在）。

② ネットに関する規制

ベトナム人、外国人に関わらず、以下のようなサイトの運営や行為は禁止されている。

- ✓ 反社会的な内容やポルノの掲載
- ✓ 国家の安全や国民の団結を脅かす内容の掲載
- ✓ 宗教紛争を煽る内容の掲載
- ✓ 迷信を喧伝する内容の掲載
- ✓ 禁止されているものの販売をするサイト
- ✓ ハッカーやパスワードを盗む行為、ウイルス拡散をするサイト
- ✓ 個人情報流出させる行為や詐欺を行うサイト

国家が有害と判断したサイトには海外のサイトでもアクセスできないようになっている。実際のこれらの規制・検閲は通信情報省が行っている

ベトナムでは、通信関係の事業を行う場合はライセンスの取得が必要となる。

外国企業でも、合弁、100%外資ともに申請、取得は可能。

(申請必要書類)

- ✓ ウェブサイトの設立申請書
- ✓ ウェブサイトの目的・使い道・提案
- ✓ 文化通信局からの推薦書
- ✓ 責任者の履歴書(外国人でも)
- ✓ 組織の営業ライセンス
- ✓ ウェブサイト内容のハードコピー

文化通信省に提出後、30日以内に結果が出る。

出典：<http://dtc.vnn.vn/vietnam/tu-van-thu-tuc-cap-phep-hoat-dong-website.html>

③ ネットのユーザープロフィール

個人よりも会社としての契約が多い。個人はネットカフェの利用が多く、チャットをしながらゲームを楽しむのが一般的。

④ ネット、ゲーム運営会社の有無

2009年2月現在、ゲーム運営会社は15社。

<主な会社>

- AsiaSoft www.asiasoft.net.vn/
- Vina Game <http://vn.vinagames.com/>
- VTC Game <http://au.vtc.vn/>

⑤ よく使う娯楽系サイトの所在地

ベトナム人をターゲットにしたゲームの場合は、一般にベトナム国内にサーバーをおくことが多い。国外にサーバーをおいた場合は、オンラインスピードが遅くなることもあり、不便と思われる。

なお、人気サイトはニュース系のサイト(代表格はVN Express)が独占している状態。

⑥ オンラインゲームの普及状況

普及状況を知るデータは見つからなかったが、ネットカフェでは10代の若者がオンラインゲームを楽しんでいるのをよく見かける。ネットカフェの利用料金は1時間3,000dぐらい。チャットができるゲームが人気。日本とベトナムとの感性の違いか、ベトナム人はあまり画像・画質にこだわらない。

ハノイの標準的なネットカフェのオーナーへの電話取材によると利用者のプロフィールは以下のとおり。

- ✓ 利用の目的：チャット 50%、ゲーム、音楽、映画 50%。
- ✓ 利用者の年齢層：中学生、高校生、大学生が大部分を占める。男性が多い。
- ✓ 利用料：1時間 3000 ドン

⑦ 人気ゲーム、課金システム

<人気ゲーム>

- ✓ Võ Lâm Truyền Kỳ (VLTK 武林伝奇/オリジナルは中国の格闘ゲーム)
- ✓ Audition (ベトナムの音楽ゲーム)

✓ Chinh Đò (ベトナムの格闘ゲーム)

日本のゲームはこれまで紹介されていない。

<課金システム>

それぞれのゲームの中で「お楽しみ度や難易度のレベル」が細分化されている。例えば1～50のレベルでは無料あるいは安い料金で遊ぶことができるが、レベル50以上、100以上といったより高度なおもしろさを追求したい場合はより高い料金を払わなくてはならない。

なお、料金はプリペイドカードで支払う。カードは携帯電話販売店、ゲーム会社の代理店、PC房やコンビニなどで購入できる。

【携帯電話】

①携帯普及率、携帯料金、携帯ゲーム料金

<携帯普及率>

ベトナム通信省の統計（2008年5月）によると、全国の携帯電話契約台数は5000万台。

固定電話と携帯電話を合わせた普及率は100人当たり92.6台に達しており、このうち携帯電話が83.5%を占めている。

携帯電話大手3社の契約数は以下の通り。数値はいずれも各社発表による。

- Viettel (国営) : 2009年2月現在2000万以上
- Mobifone (国営) : 2009年末までに3000万件達成を目標
- Vinafone (国営) : 2009年現在約2000万件

ベトナムでは90%くらいが第2世代(2G)のGSMを未だに使用しており、第3世代(3G)のCDMA、PHS、GPRSなどは少数派。端末の互換性がないため、ユーザーは少ない。PHS方式でS-phoneがあったが、ベトナムで人気がない為、現在はGSMに変更。携帯電話端末(ハード)では、ノキアが最大シェア。その他、サムソン、モトローラ、ソニーエリクソンなどがある。

<携帯料金>

会社名	VIETTEL	MOBIFONE	VINAFONE
契約手数料	11万9000VND	11万9900VND	10万9000VND
月極め契約基本料金/1ヶ月	59,000VND	55,000 VND	50,000 VND
同じキャリア間の通話料 (ピーク時)	From 1090 VND/mn	100 VND/ first 06s 16.67 VND / 01s following	VND 109.09/first 06 seconds VND 18.18/01 seconds following
他キャリア間の通話料 (ピーク時)	From 1290 VND/mn	120 VND/ first 06s 20VND/01s following	

同じキャリア内の SMS 料金	From 300VND/msg	From 100 VND/msg	Peak:VND 290/message Off peak: VND 100/message. Off peak: 1:00 - 5:00 all of days
他キャリアへの SMS 料金	From 350VND/msg	From 250 VND/msg	Peak:VND 350/message Off peak: VND 250/message. Off peak: 1:00 - 5:00 all of days
国際通話	From 3600VND/min	From 3000VND/min	From 3000VND/min
国際 SMS	2500VND/msg	0.165 USD/msg	

※2009年2月現在。

出典

VIETTEL : <http://www.vietteltelecom.vn/mobile/goicuoctratuoc/2008/10/2541/>

VINAFONE : <http://www.vinaphone.com.vn/locale.do?language=en>

MOBIFONE : http://www.mobifone.com.vn/web/vn/products/tariff_g.jsp

<携帯ゲーム料金>

1 ゲーム 1 万ドンからの料金を支払えばゲームがダウンロードできるが、携帯ゲームをやる人は殆どいないといわれる。理由として考えられるのは、ベトナム人はバイクでの移動が多く、ゲームができる電車などの通勤時間がない。また、1人でプレイするゲームは人気がない。

ネットカフェの利用目的を見るとわかるとおり、ネットカフェはチャット目的で利用する人がもっとも多く、対話性の薄い携帯のゲームへの需要は少ないと推測される。